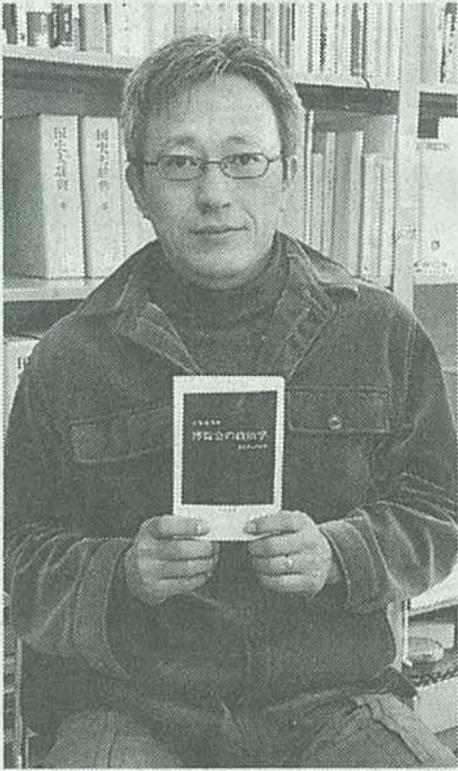


佐賀新聞 2009(平成21)年12月27日(日) 本・読書欄 マイブック

**マイブック**



「博覧会の政治学  
まなざしの近代」  
吉見俊哉著 (中央新書)

博覧会を考えるための基本文庫といえる本。大航海時代以来、世界中の珍しい文物が集められて邸宅を飾り、やがて寄贈されて博物館になるといった歴史が記され、博覧会と日本人のかかわりも考察している。

「博覧会を考える基本文庫」と話す浦川和也さん

### 博覧会考える基本文庫

日本が国内外で発行した絵はがきを、自身の研究テーマに据えており、絵はがきと同様に、博覧会も為政者が「視覚装置」として活用してきた側面があるため、関連づけて読んだ。歴史をみると、表向きは華やかで楽しい博覧会だが、裏には為政者側のさまざまな意図があり、植民地主義を鼓吹した歴史もあることが示される。

学芸員には必須の本とはいえ、県立美術館で元日に始まる特別展「近代との遭遇」でも、参照しながら準備を進めている。(44歳、県立博物館・美術館学芸員)

インタビュー：佐賀新聞社編集局生活文化部 福井寿彦記者